

第89回メーデー中央大会に4万人が集結 JR連合の仲間も大勢参加!

連合の第89回メーデー中央大会が4月28日、東京・代々木公園で「働く者のための働き方改革」をスローガンに開かれ、約4万人が参加した。JR連合からは松岡会長を先頭に多くの役員や組合員が参加。イーストユニオンも菅野中央執行委員長をはじめ関東地区を中心に各地方からも多数の組合員が参加した。



主役は「一人ひとりの働く仲間、額に汗して働く仲間」働く者のボトムアップを!



神津里季生(こうづ・りきお)会長

底上げ春闘3年目、この間、要求したくともできなかった組織が要求できるようになった、そして答えを出している。全体で確認してほしい。元気の出る回答を引き出している。現在も春闘の途中である。しかし、働く仲間の多くの職場には労働組合がない。労働組合の組織率は17%、雇用労働者の8割以上の職場には労働組合がない。労働組合の傘に守られていない。言いたいことが言えない。交渉で問題解決をする場所がない。私たちは、社会にアピールしなければならない。労働組合をもっと作って働く仲間を守らなければならない。

過労死、過労自殺について、働き過ぎで命を落としてしまうことをゼロにしなければならない。国会や霞が関の混乱で国会が機能していない。与党も悪いが、何年もバラバラの野党にも責任がある。私たちは、2大政党が出来るまで応援団として取り組んで行く、私たちの働く仲間を国会に送り込もう。主役は誰なのか、主役は「一人ひとりの働く仲間です。額に汗して働く仲間です。」主役が声を出して行こう。



メーデーは、各産業別に組織される産業別労働組合組織(産別)や産別を構成している単位労働組合(単組)から組合員が結集し、労働者の地位や労働条件の向上にとどまらず、人権や労働基本権の確立、民主主義の発展、恒久平和の希求など、社会に向けてメッセージを発信している。

メーデーは今、「労働者の団結と主張の場」から「働くすべての仲間の祭典」へ、メーデーの位置づけは、時代の流れとともに変化している。

働く者の連帯で、より暮らしやすい「安心社会」を構築しよう!